

2026/7/29

「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」の改訂に向けた検討会議

性的指向とジェンダーアイデンティティの 多様性にかかる学校での取り組み

宝塚大学看護学部
日高 庸晴

本資料の無断での転載・引用・複製を禁じます

関連するこれまでの国の主な動き

2002	法務省 文科省	人権教育・啓発に関する基本計画
2003	法務省	性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律
2008	文科省	人権教育の指導方法等の在り方について[第三次取りまとめ]
2009	法務省	啓発活動年間強調事項
2010	文科省	児童生徒が抱える問題に対しての教育相談の徹底について
2010	内閣府	子ども・若者育成支援推進本部
2012	内閣府	自殺総合対策大綱改正
2013	文科省	学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査
2015	文科省	性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について
2015	内閣府	第4次男女共同参画基本計画
2016	文科省	性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について(教職員向け)
2016	厚労省	改正男女雇用機会均等法
2017	文科省	いじめ防止対策推進法「いじめの防止等のための基本的な方針」改正
2017	法務省	刑法改正 性暴力の被害者の性別
2017	厚労省	児童養護施設等におけるいわゆる「性的マイノリティ」の子どもに対するきめ細やかな対応の実施等について
2022	文科省	「生徒指導提要」改正 「性的マイノリティ」について初めて記載
2023	内閣府	性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律
2025	法務省 文科省	人権教育・啓発に関する基本計画(第二次)
2026	内閣府	性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する基本的な計画

う。)と「性的指向」は異なるものであり、対応に当たって混同しないことが必要です。性的指向とは、恋愛対象が誰であることを示す概念とされています。

LGBTとは、Lがレズビアン（Lesbian 女性同性愛者）、Gがゲイ（Gay 男性同性愛者）、Bがバイセクシャル（Bisexual 両性愛者）、Tがトランスジェンダー（Transgender 身体的性別と性自認が一致しない人）、それぞれ四つの性的なマイノリティの頭文字をとった総称で、性の多様性を表す言葉です。このうち、LGBは「〇〇が好き」というような性的指向に関する頭文字ですが、Tは「心と体の性別に違和感を持っている」性別違和に関する頭文字で、性的指向を表す頭文字ではありません。また、いわゆる「性的マイノリティ」は、この四つのカテゴリーに限定されるものではなく、LGBTのほかにも、身体的性、性的指向、性自認等の様々な次元の要素の組み合わせによって、多様な性的指向・性自認を持つ人々が存在します。なお、Sexual Orientation（性的指向）と Gender Identity（性自認）の英語の頭文字をとった「SOGI」という表現が使われることもあります。

12.4.1 「性的マイノリティ」に関する理解と学校における対応

性的マイノリティに関する大きな課題は、当事者が社会の中で偏見の目にさらされるなどの差別を受けてきたことです。少数派であるがために正常と思われず、場合によっては職場を追われることさえあります。このような性的指向などを理由とする差別的取扱いについては、現在では不当なことであるという認識が広がっていますが、いまだに偏見や差別が起きているのが現状です。

文部科学省では、性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するいじめを防止するため、「いじめ防止対策推進法」に基づく「いじめの防止等のための基本的な方針」を平成29年に改定し、「性同一性障害や性的指向・性自認について、教職員への正しい理解の促進や、学校として必要な対応について周知する」ことが追記されました（→第4章

12年ぶりの生徒指導提要の改正 性的少数者の児童生徒への対応に関する 項目を盛り込むことに



文部科学省



生徒指導提要

令和4年12月

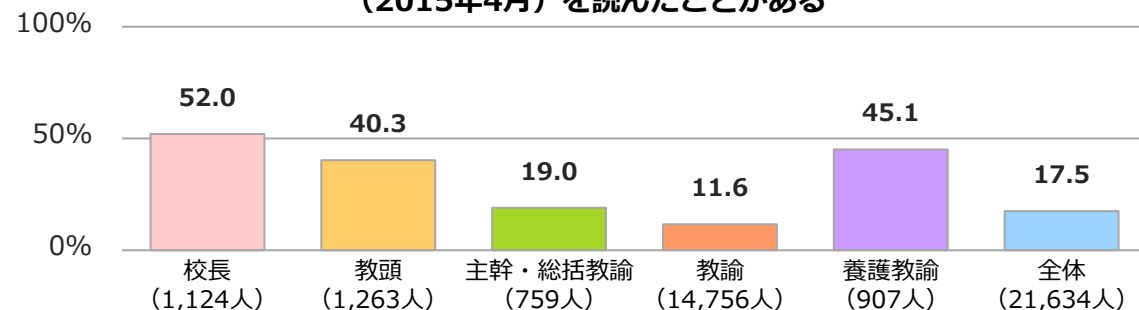
文部科学省

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

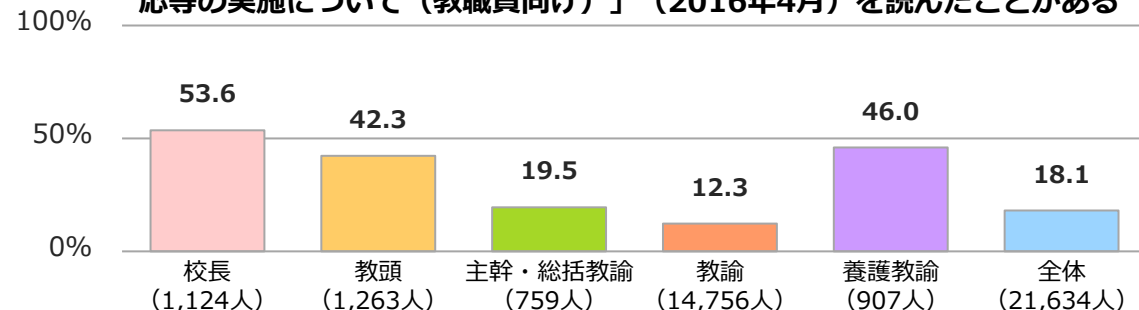
教員の学びの現状と文科省通知等の浸透度合い

有効回答数 21,634人（全国36自治体の教員） 調査実施期間：2019年10月～2020年3月

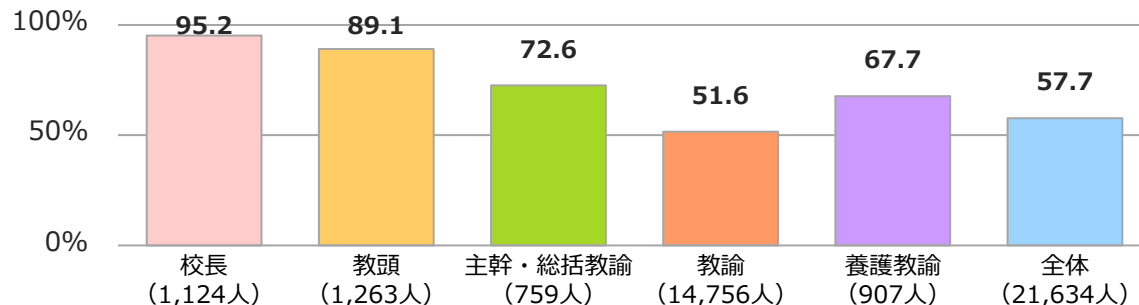
「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」（2015年4月）を読んだことがある



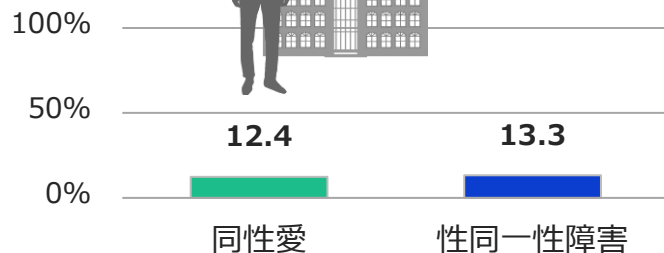
「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」（2016年4月）を読んだことがある



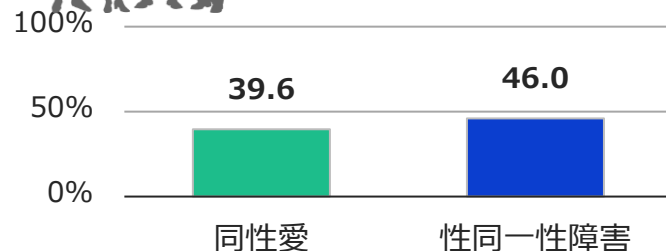
「いじめの防止等のための基本的な方針」（2017年改定）を読んだことがある



出身養成機関での学び



教員になってから
研修での学び



性的指向やジェンダーアイデンティティの多様性の理解増進のために**学校で実施可能**な取り組み（例）

- ①いじめ・不登校・自傷行為・自殺未遂等既に学校が直面している課題の背景要因に性的指向とジェンダーアイデンティティの関与の有無を検証
- ②教員研修の実施（教員間の理解と意思統一・合意形成をなるべく早くに）
特定教科の役割ではなく、学校全体で取り組む人権教育であるという共通認識を。
- ③理解増進のための授業・啓発の実施
児童生徒からの突発的な不規則発言があったら絶対に放置しない。
- ④先生がポジティブに発言する（多様性について）
- ⑤図書の配架（図書室、保健室、生徒指導室、校長室など複数箇所）
- ⑥啓発ポスターの掲示（高校・中学保健ニュース、市民向け用の活用等）
- ⑦学校だより・学級通信等で取り上げ、保護者や地域と連携する

＊性別表記（ジェンダーアイデンティティ）にだけ特化した取組にならないように留意する

LGBTQの子を持つ親の心情やニーズに関するアンケート

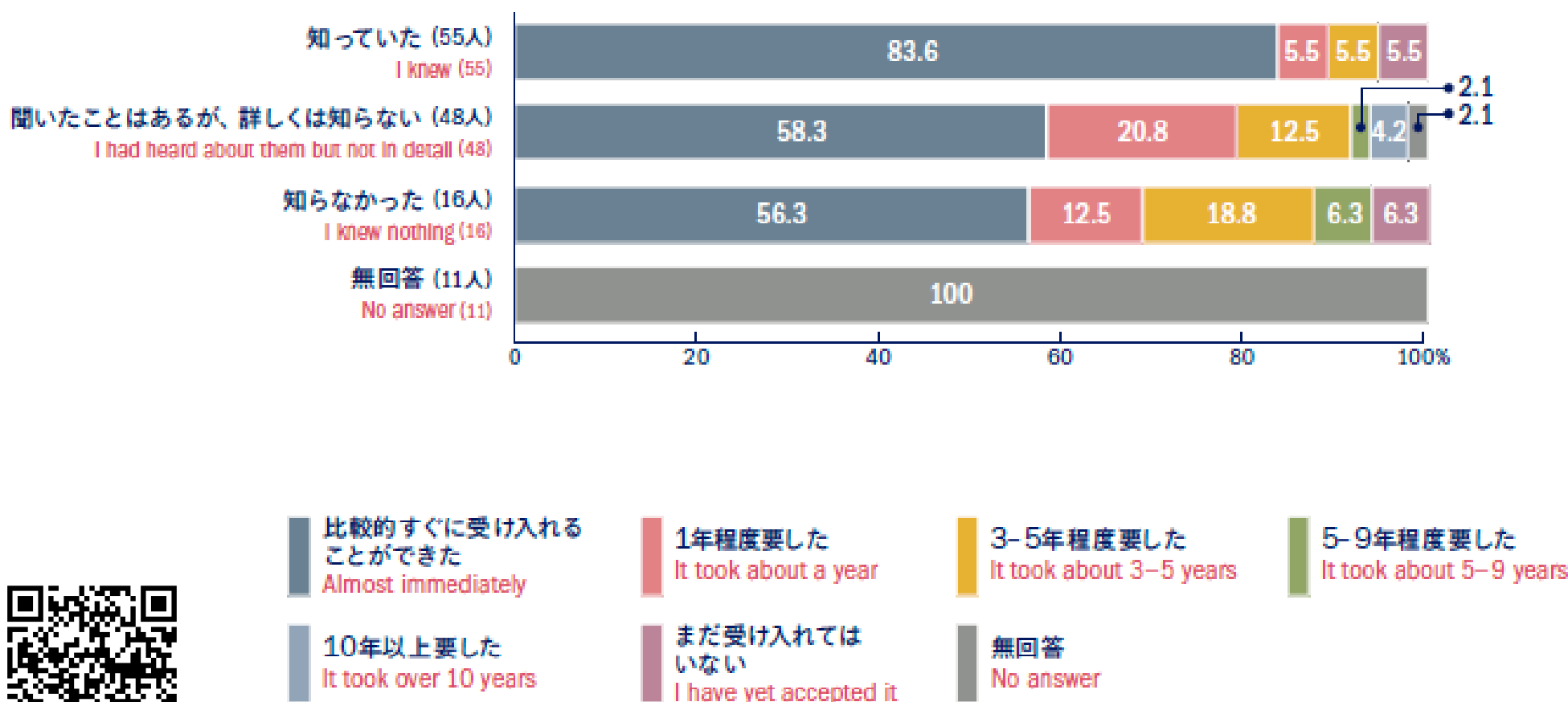
調査期間: 2021年3月11日～6月30日 総回収数211件、有効回答数130件(有効回収率61.6%)

4-2

カミングアウトされる前にLGBTについてご存じでしたか?

Did you know about LGBT issues before your child came out to you?

n=130



小・中・高校で特に用事がないのに、保健室へ行ったこと

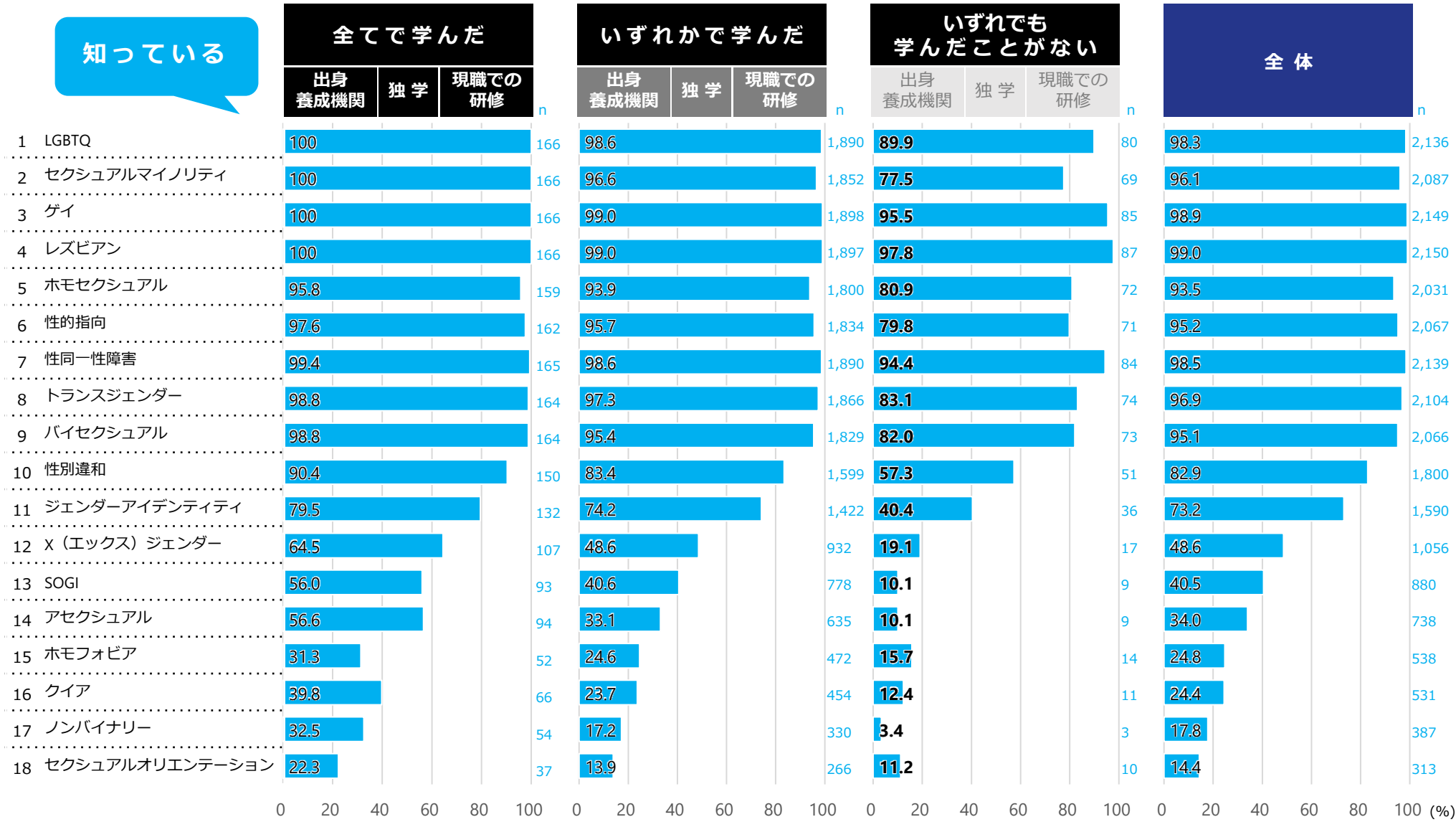
特に用事がないのに、保健室へ行ったこと

ある



問8 次の用語を知っていますか？

「同性愛」と「性別違和/トランスジェンダー」について



問11

「同性愛」や「性別違和/トランスジェンダー」の児童生徒と直接関わった経験がある方にお尋ねします。
児童生徒から相談を受けた際、組織内で情報共有をしましたか？

問11-2

情報共有するにあたって、当該児童生徒に承諾を取りましたか？（情報共有したと回答した方のみ回答）

「同性愛」と「性別違和/トランスジェンダー」について

全てで学んだ

出身
養成機関

独学

現職での
研修

「同性愛」や「性別違和/トランスジェンダー」
の児童生徒と直接関わった
経験がある方93人

情報共有しなかった

4.3

情報共有した

95.7 %

情報共有したと回答した89人

承諾を取らなかった

4.5

承諾を取った

56.2 %

承諾を取った場合と
取らなかった場合と
両方ある
39.3

いずれかで学んだ

出身
養成機関

独学

現職での
研修

「同性愛」や「性別違和/トランスジェンダー」
の児童生徒と直接関わった
経験がある方884人

情報共有しなかった

7.8

無回答
2.5

情報共有した

89.7 %

情報共有したと回答した793人

承諾を取らなかった

10.6

承諾を取った

54.4 %

承諾を取った場合と
取らなかった場合と
両方ある
34.6

いずれでも
学んだことがない

出身
養成機関

独学

現職での
研修

「同性愛」や「性別違和/トランスジェンダー」
の児童生徒と直接関わった
経験がある方21人

情報共有しなかった

9.5

情報共有した

90.5 %

情報共有したと回答した19人

承諾を取らなかった

31.6

承諾を取った

42.1 %

承諾を取った場合と
取らなかった場合と
両方ある
26.3

全体

「同性愛」や「性別違和/トランスジェンダー」
の児童生徒と直接関わった
経験がある方998人

情報共有しなかった

7.5

無回答
2.2

情報共有した

90.3 %

情報共有したと回答した901人

承諾を取らなかった

10.4

承諾を取った

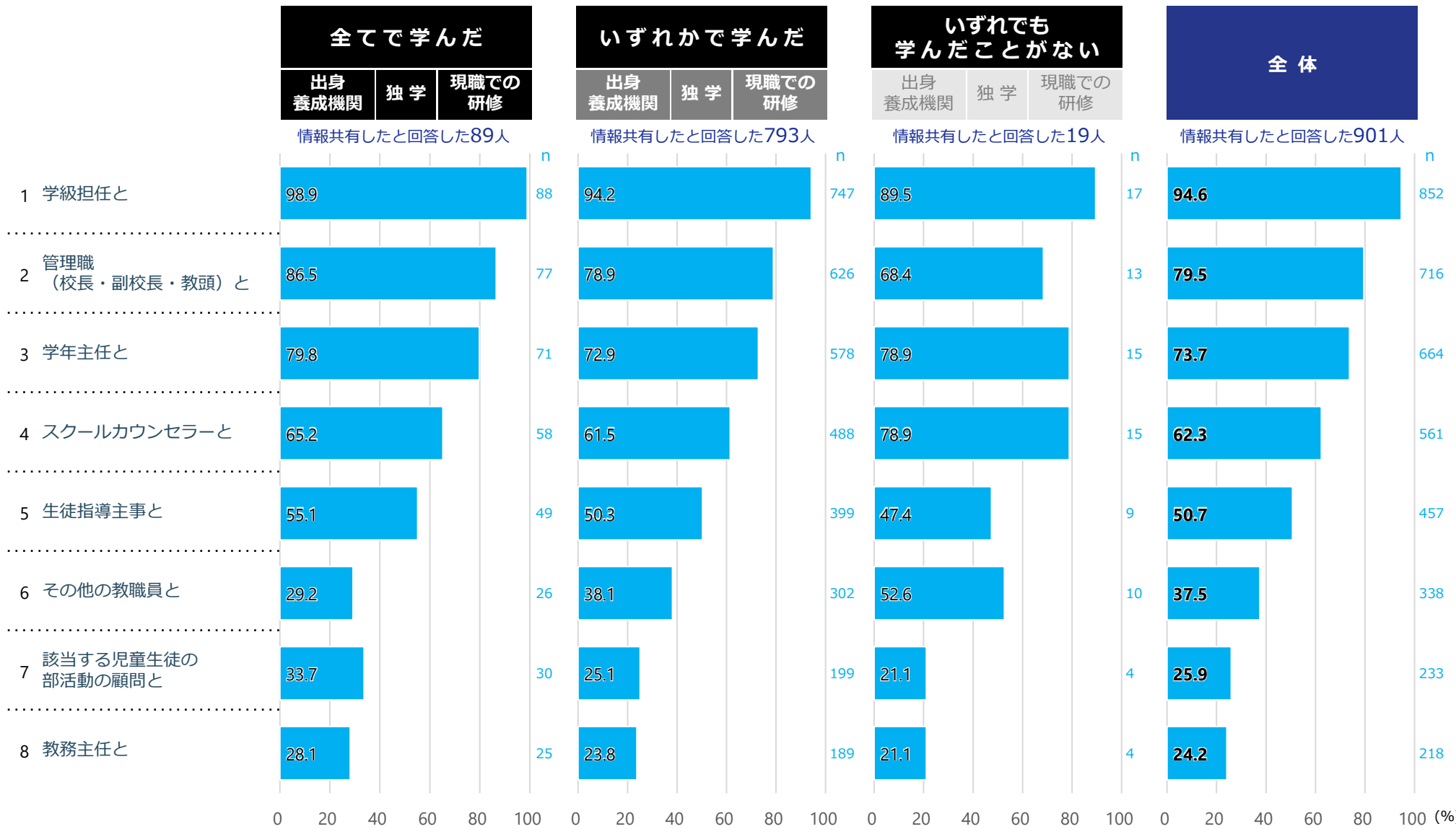
54.3 %

承諾を取った場合と
取らなかった場合と
両方ある
34.9

養護教諭の組織内での情報共有（学びの状況別）

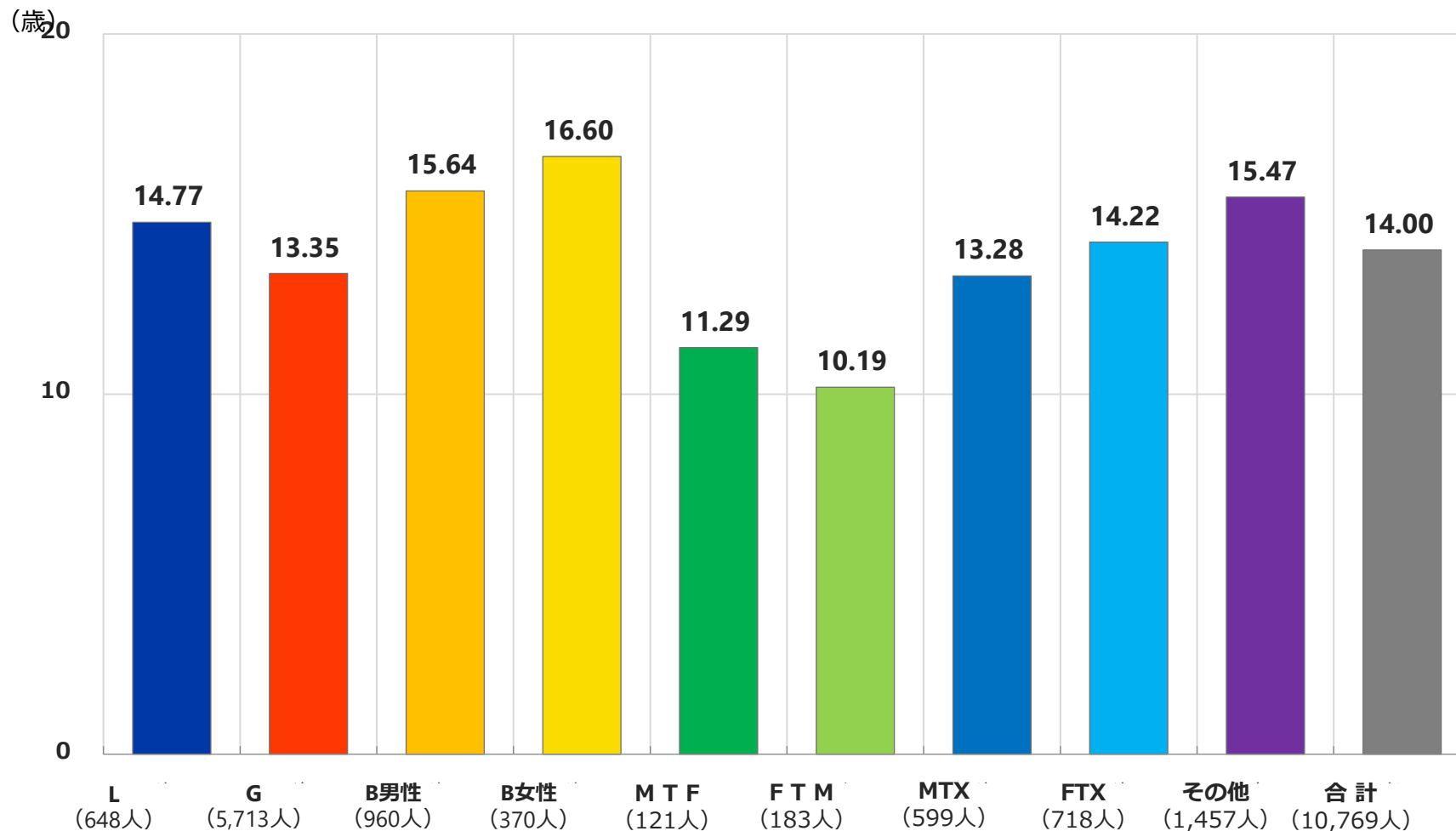
問11-1 情報共有をした方にお尋ねします。組織内の誰と情報共有しましたか？

「同性愛」と「性別違和/トランスジェンダー」について



周囲との違いに気づいた年齢： 性的指向よりジェンダーアイデンティティの気づきが平均年齢で早い傾向に

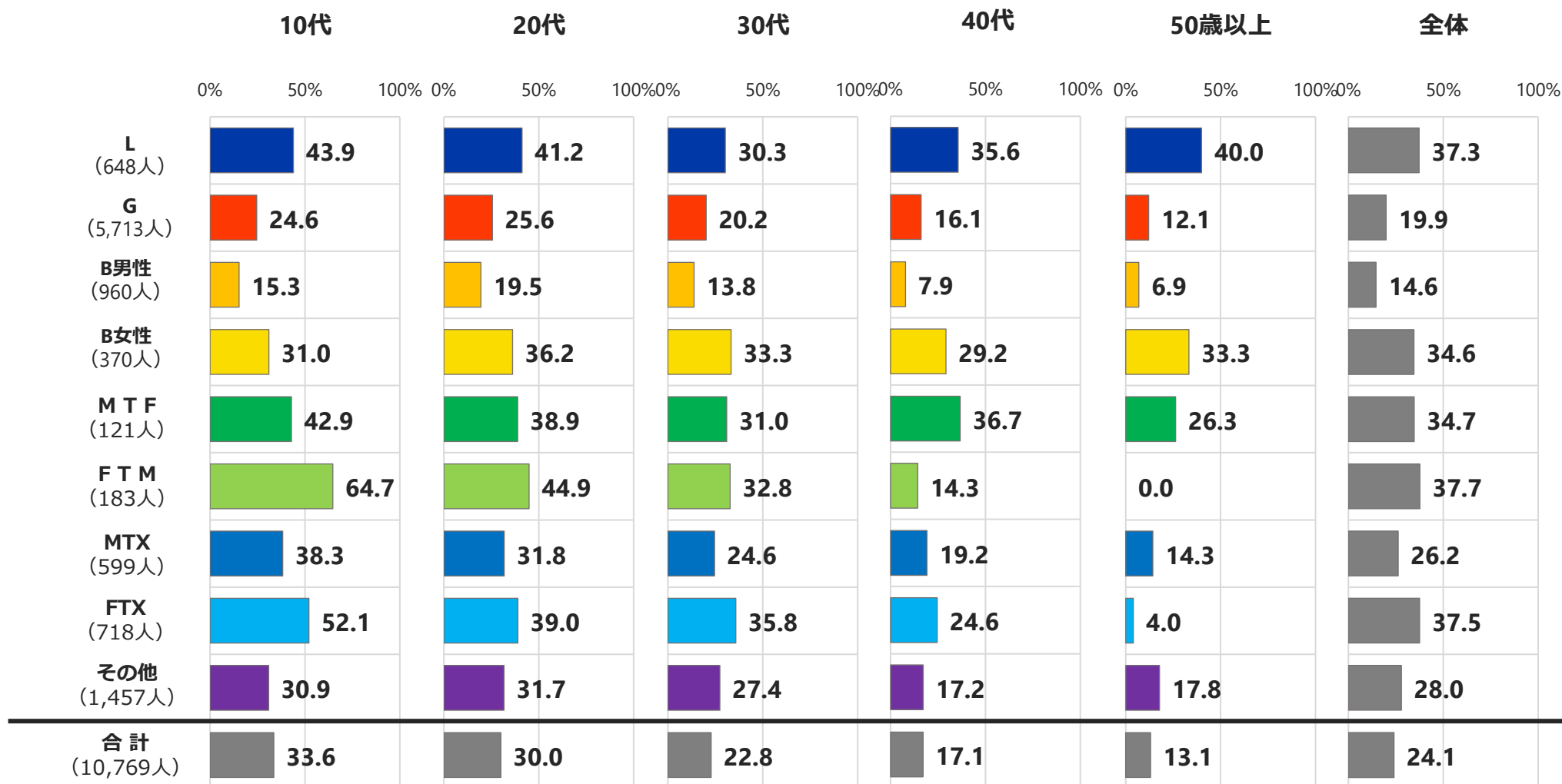
周囲との違いに初めて気づいた平均年齢



性別や性自認に関する相談：

全体で4人に1人、10代に限定すれば3人に1人に相談に乗ってもらいたかったニーズがあったことが明らかに。とりわけトランスジェンダーに高率な傾向。

あなたが性別や性自認について周囲の人と違うと初めて気づいた時、誰かに相談したいと思ったことがありますか？



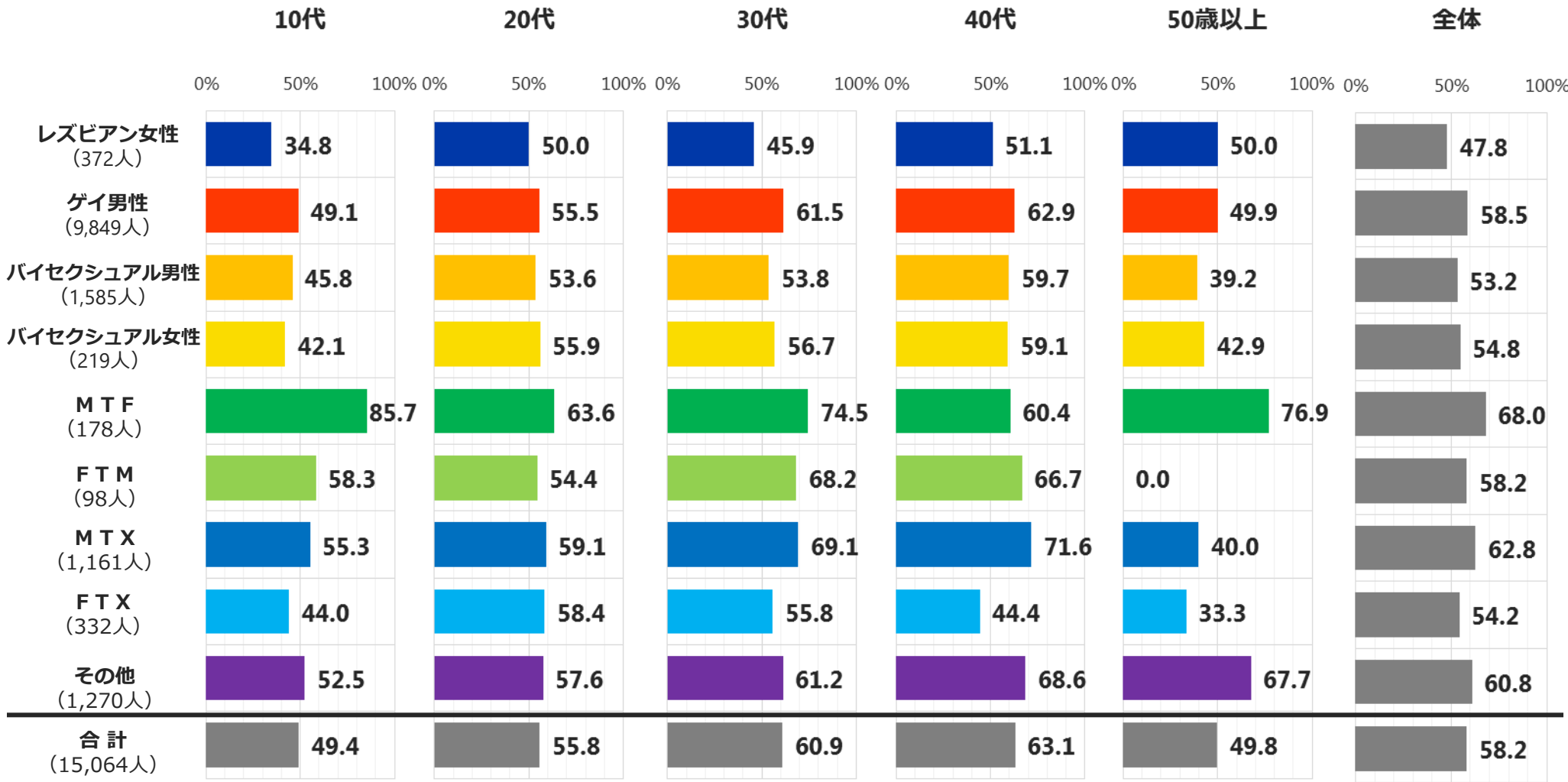
— SNS等で差別発言を見聞きしたこと —

あなたはSNS等でLGBTQ+についての差別的な発言を見聞きしたことがありますか。



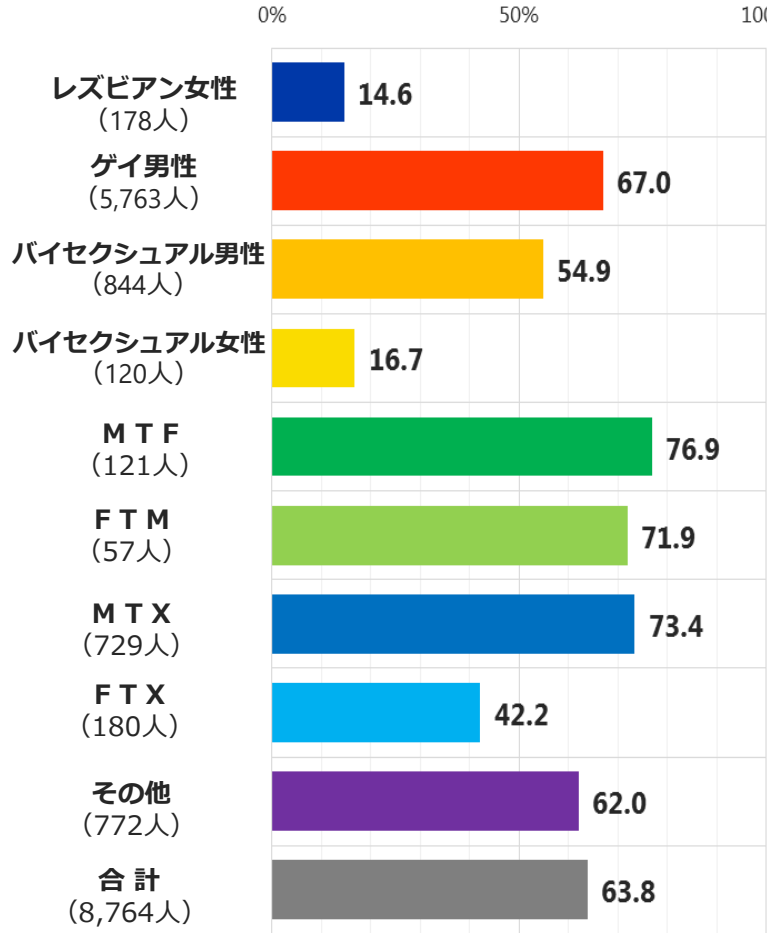
学校生活（小・中・高）におけるいじめ被害経験： MTF、ゲイ、Xジェンダーに高率 男らしさ規範等が影響しているのでは

これまでの学校生活（小・中・高）で、いじめられたことがありますか？

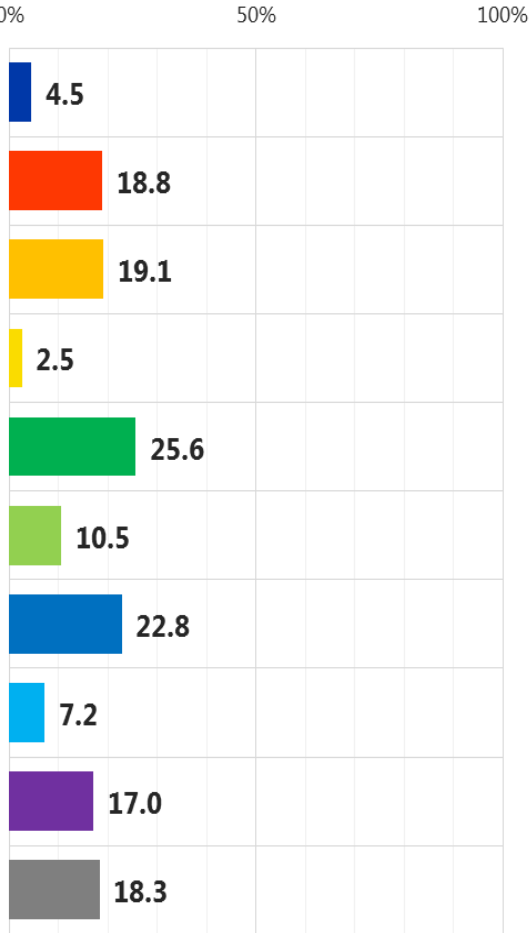


いじめ被害の内訳（2016年調査）と性暴力被害（2019年調査）：

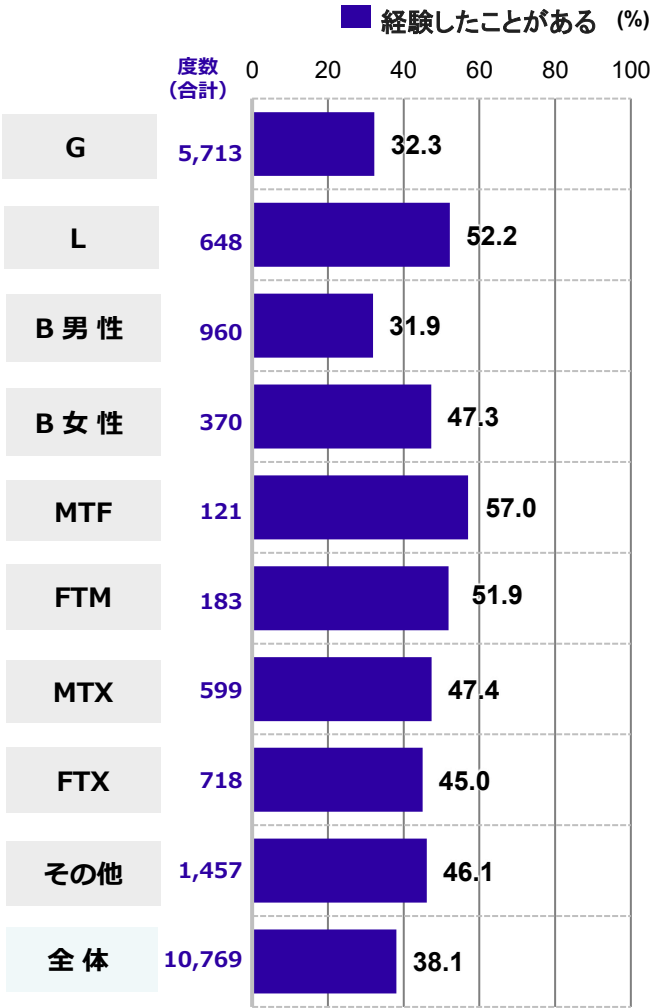
「ホモ・おかま・おとこおんな」などの言葉によるいじめ



服を脱がされるなどのいじめ



LGBTQにおける性暴力経験割合

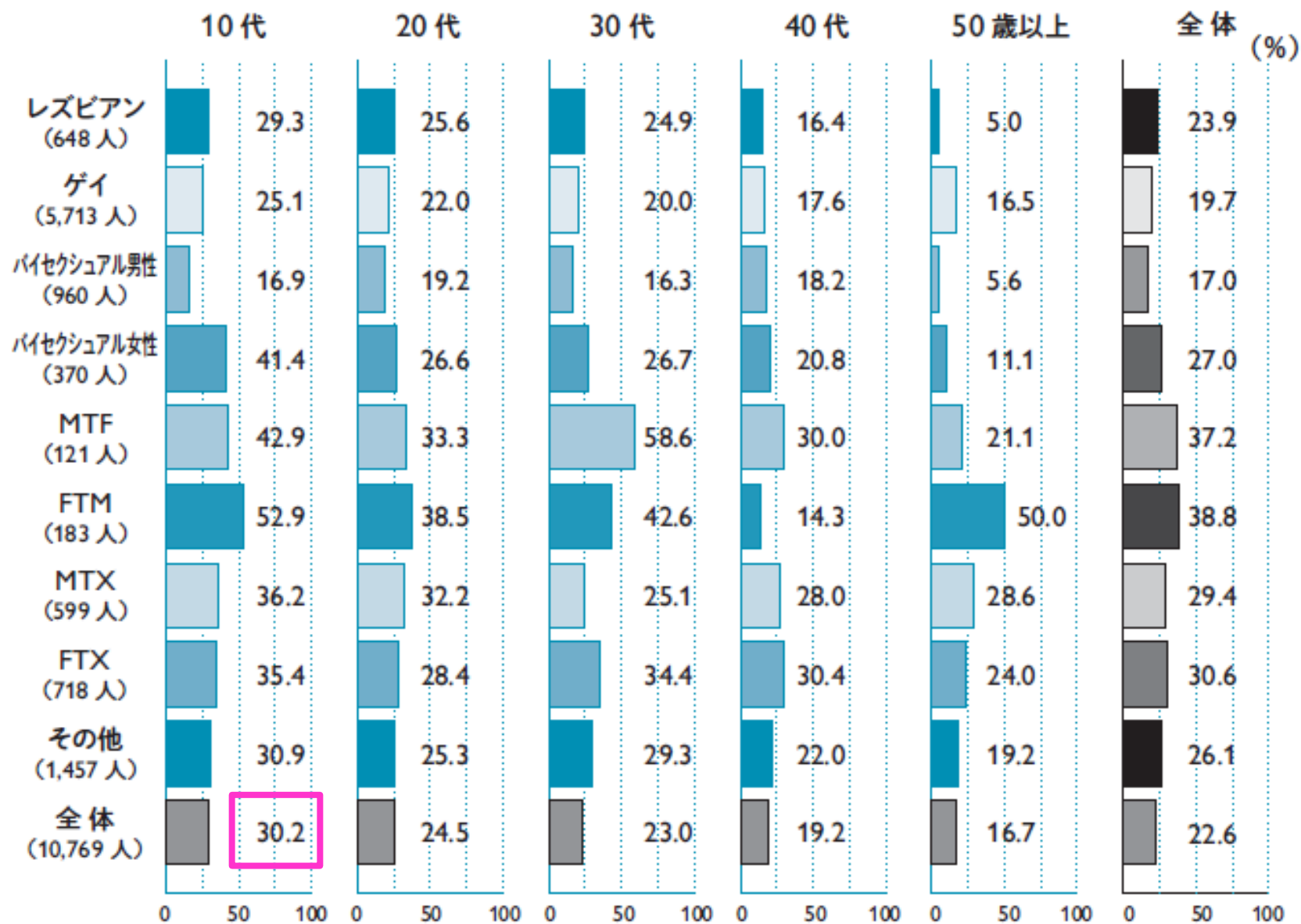


2019年調査

(日高庸晴 調べ)

2016年調査

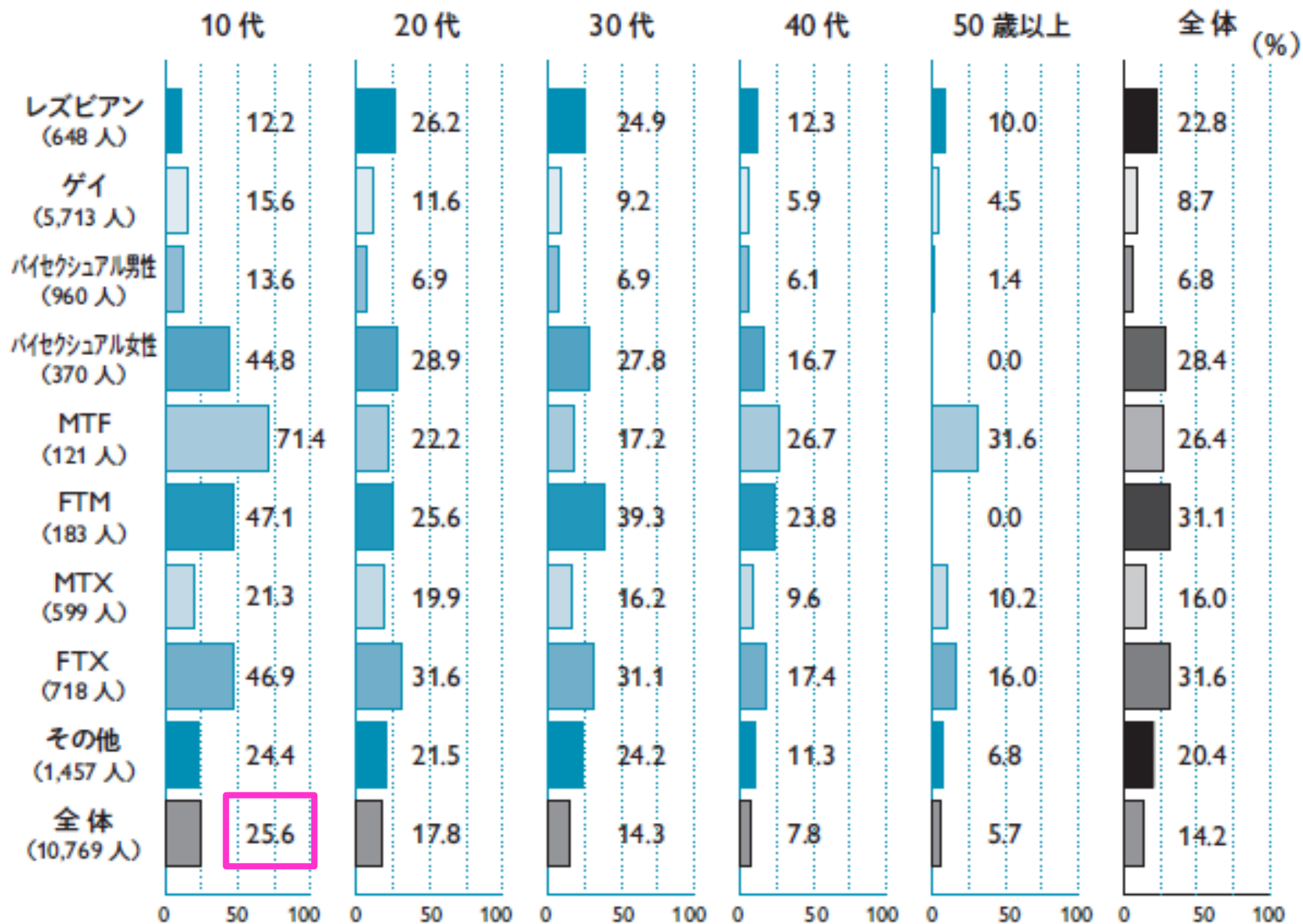
2019年調査



小・中・高等学校での不登校経験

2019年調査

日高 庸晴(2024) LGBTQ+の健康レポート誰にとっても心地よい医療を実装するために, 医学書院



刃物などでわざと自分の身体を傷つけた自傷行為の経験

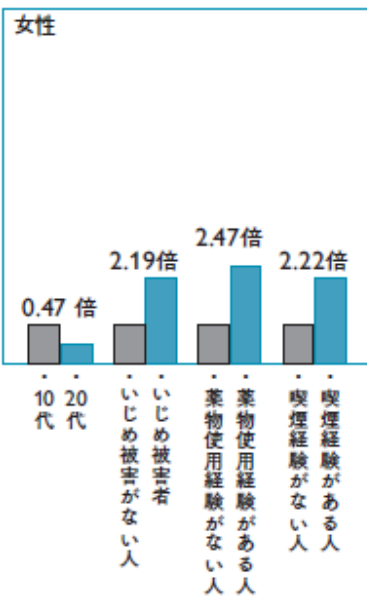
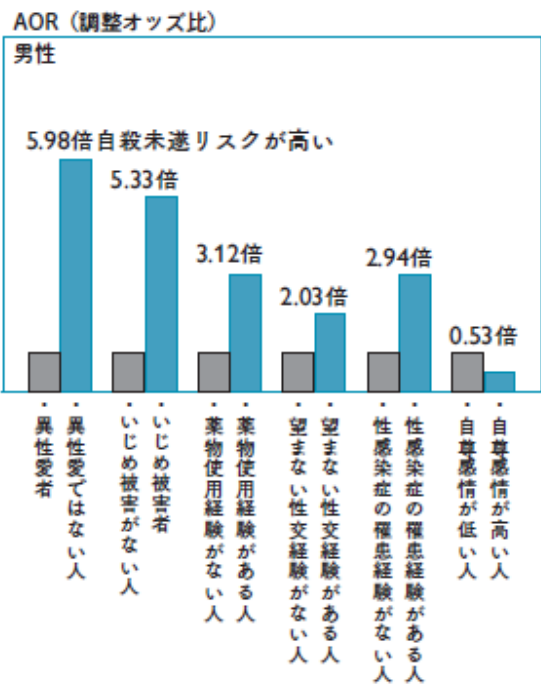
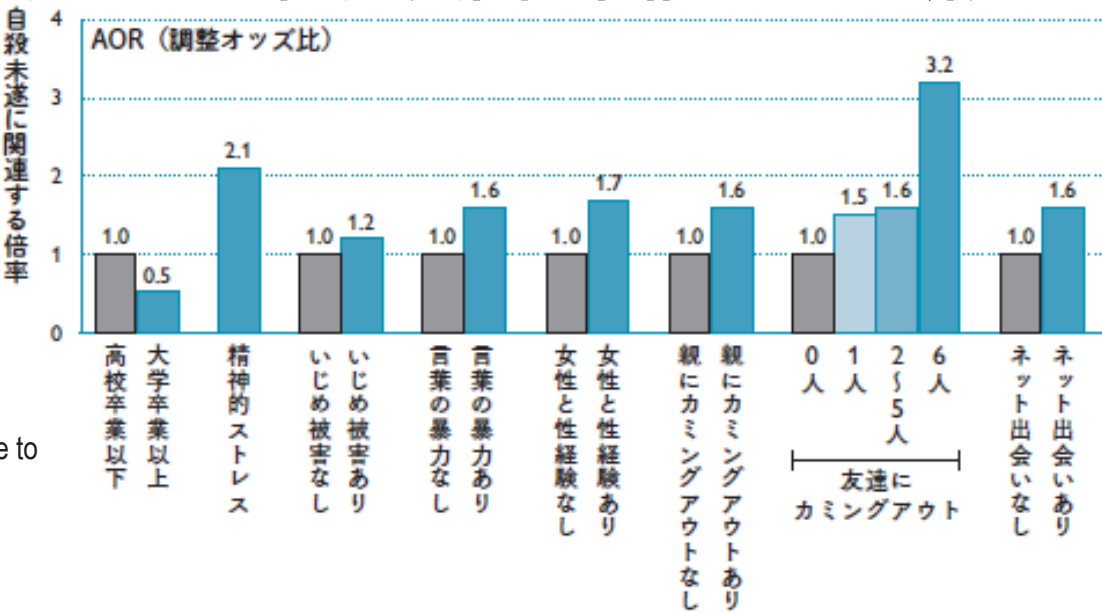
2019年調査

日高 庸晴(2024) LGBTQ+の健康レポート誰にとっても心地よい医療を実装するために, 医学書院

ゲイ・バイセクシュアル男性の自殺未遂とその関連要因ー国内2つの研究

性的指向を周囲にカミングアウトしている人数が多いほど自殺未遂リスクが高く、
6人以上にカミングアウトしていると自殺未遂リスクは3.2倍高まる

Hidaka Y & Operario D (2006) Attempted suicide, psychological health and exposure to harassment among Japanese homosexual, bisexual or other men questioning their sexual orientation recruited via the internet.
Journal of Epidemiology and Community Health 60: 962-967

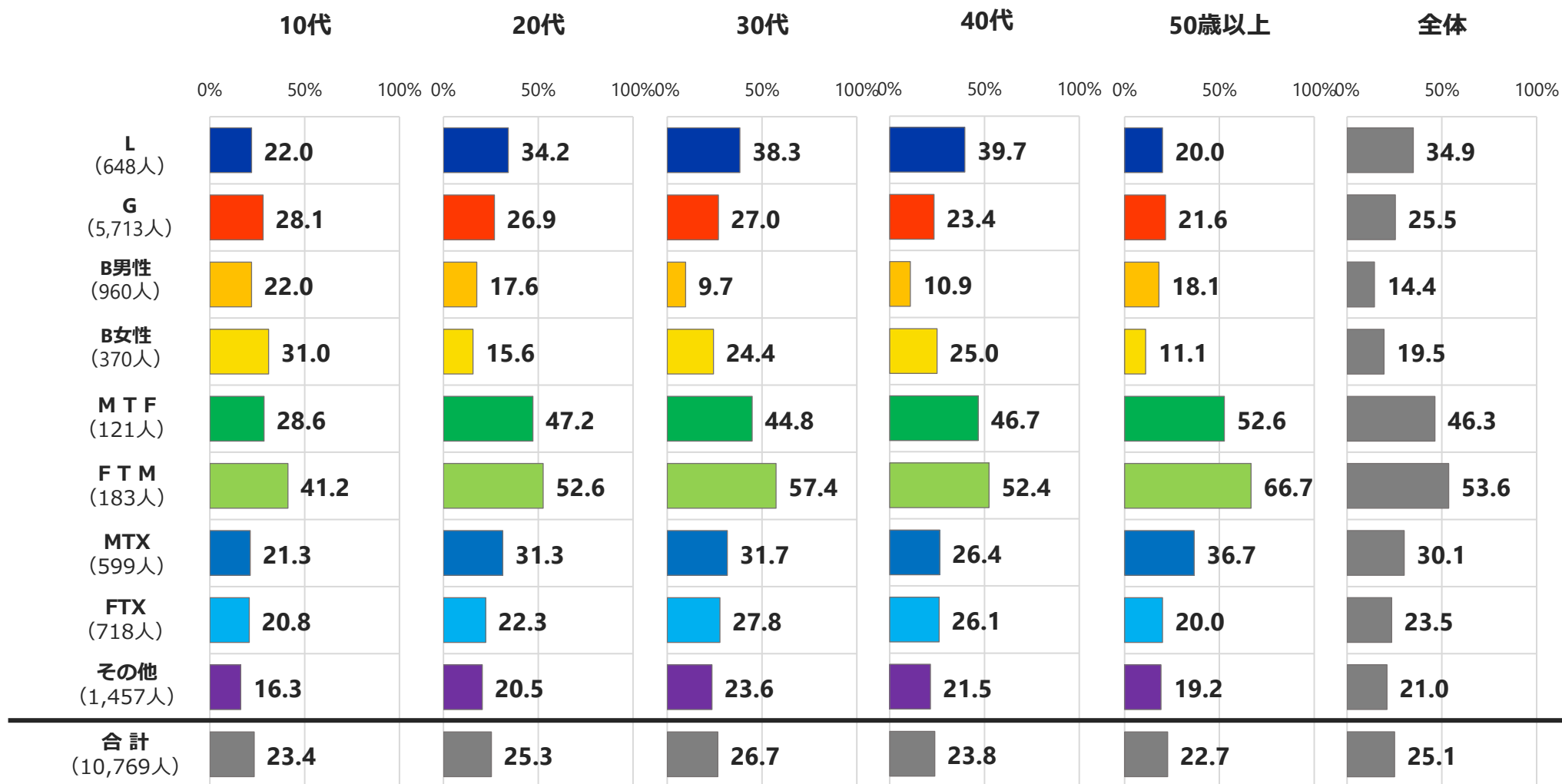


異性愛ではない(ゲイ・バイセクシュアル男性)の自殺未遂リスクは
異性愛男性に比較して5.98倍高い

都会の若者の自殺未遂経験割合とその関連要因に関する研究
ー大阪の繁華街での街頭調査の結果からー,
<https://health-issue.jp/suicide/>

Hidaka Y, et al (2008) Attempted suicide and associated risk factors among youth in urban Japan. Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology 43,: 752-757

性的指向やジェンダーアイデンティティのアウティング被害経験 (アウティング=言いふらす、暴露する)



参考資料

- ・ 日高庸晴(2021)子どもの“人生を変える”先生の言葉があります2021, https://health-issue.jp/teachers_survey_2019.pdf
- ・ 日高庸晴(2024)LGBTQ+の健康レポート 誰にとっても心地よい医療を実装するために, 医学書院

子どもの“人生を変える”

先生の言葉があります

2021

子どもたちは先生を見ています

LGBTs の子ども達は、自分自身が嘲笑の対象とされる可能性があることや、存在そのものを否定されるようなメッセージを日々の生活の中で受け取ってしまうことが多くあります。

LGBTs の子ども達は、ステレオタイプな見方で一括りにされるのではなく、個々の多様性を尊重したうえで、あるがままの存在を理解されたいと願っています。

LGBTs の子ども達は、異視、否定、揶揄や嫌悪される存在として学齢期を過ごすのではなく、LGBTs であることを多様な在り方のひとつと捉えて生活できるような環境を望んでいます。

そのために、学校で出来ることはたくさんあります。先生に大きな期待があります。

図書館や保健室に LGBTs に関する本を置く

ことや、学校内にポスターを貼るだけでも当事者である子どもにとっては貴重な情報獲得の機会になります。ホームルームの話題として LGBTs の人権課題を取り上げることも重要な取り組みになります。学齢期の早い段階で多様性について肯定的なメッセージを受け取りそれを内面化することは、当事者である子ども達自身の自尊感情や自己肯定感を高めていくことのみならず、当事者ではない子どもにおいても人権感覚を養う貴重なきっかけになります。

LGBTs の子ども達は、誰が信頼できる大人であるかしっかり見えています。この先生ならば自分のことをわかってくれるだろうと信じて、期待して、本当の自分の話をするでしょう。

学校での取り組みや先生のさりげない一言が、彼らの人生を変えることになります。



本研究は令和元年度（2019年度）厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「都市部の若者男女における HIV 感染リスク行動に関する研究（研究代表者 日高 庸晴）」の一環として実施し、このリーフレットは 令和 2 年度宝塚大学学長鶴堂経典の助成によって作成した。

©Yasuharu Hidaka, PhD (2021.3)

日高 庸晴（宝塚大学看護学部 教授）

<https://health-issue.jp/>

気になる子ども
いませんか？

クラスの子どもを 思い出してください。

自分のクラスの子どもが、LGBTs (エル・ジー・ビー・ティーズ) のいずれかに該当するかもしれないと考えた事がありますか？ 統計により、「学校の**クラスの1~2人**は、LGBTs である」ことが推定されています。今こそ、性的指向と性自認の多様性について、一緒に考えてみませんか？

こんな子ども、いませんか？ セクシュアルマイノリティの子どもたち

制服が着られない

「体が女だから、女の制服を着なくてはならない。」これが苦痛でたまりません。つらくて、恥ずかしくて、とてつもない嫌悪感と違和感に襲われます。親は「一時的な感情だ」と相手にしてくれませんが、どうすればいいのでしょうか…。

イジメと不登校

「オネエ」「オカマ」「ホモ」「おとこおんな」「気持ち悪い」「近寄るな」…。他の男子と何か違うところがあったのか自分でもわかりませんが、学校ではずっといじめられていました。しかし、いじめの原因と思われることを先生や両親に言うことができず、学校へ行けなくなり、不登校になってしまいました。

自傷行為

自分がゲイであることを自分自身ではそれなりに受け容れていようと願います。授業や先生、親から同性を好きになっても、両性であっても異常ではないという肯定的な一言を言ってくれただけで、自分を罰するような気持ちで、自分の体を故意に傷つけました。

身近にいる子どもの話です~クラスに1~2人という統計~



自分はどうなっていくの？ 将来に希望がもてない

自分が「レスビアン」と認識してから、このまま大人になっていくのが怖い。この先、私はどうなるんですか？ どうやって生きていけばいいんですか…？

じつはカミングアウトしたい

もう、隠して生きているのは嫌だ。トランスジェンダーであることを、みんなに打ち明けたい。体は男でも、自分が男であるという自覚は全くないんです。自分らしく生きたい！

学校の先生

授業で先生が、TVでよく見るゲイやおネエタレントを笑い者にするような発言をしました。同級生のほとんどが、一緒に笑っていました。何がそんなに面白いの？ ゲイは笑われる存在なの？ 僕は、みんなと一緒に笑った振りをするのが精一杯でした。一緒に笑わなければ、みんなが僕のことをゲイだと思うのではないかと、怖かったからです。

先生との交換日記

毎日、先生に勉強してきたノートをもてもらっていました。そのうち、同性が好きで自分のことをノートに書くようになりました。先生は毎日返事をくれました。高校時代にあの先生に出会えたから、自暴自棄になることもなく大人になれたと思っています。

LGBTsの 子どもたちの実態

自殺を考える — 64%が自殺を考え、14%が未遂という現実 —

「いじめ」と「不登校」

LGBTs の子どもは、差別やいじめ被害の経験割合がとても高いことが、国内外の調査結果で明らかになっています。彼らにとって、学校が安全な場所ではなく、「ここでどうやって生き延びていくことができるか」と、常に恐怖を感じる場所になってしまっている場合も少なくありません。

自傷行為のリスクが高い

LGBTs の「刃物などでわざと自分の身体を切るなどして傷付けた」自傷行為経験率は若年層に高率です。10 代に限定すると、レスビアン 47.8%、ゲイ 16.9%、バイセクシュアル男性 15.3%、バイセクシュアル女性 42.1%、トランス女性 (MTF) 42.9%、トランス男性 (FTM) 50%* であり、首都圏男子中高生の自傷行為経験率 7.5%** と比較しても 2~7 倍であることがわかっています。自傷行為は繰り返す傾向にあり、自死といった最悪の結果にならないために、私達に何ができるのでしょうか。

*日島康典 (2016) LGBT 当事者の健康状態 — いじめ問題と医療機関との関係 — (有回答数 15,064人)
**Matsumoto T, Imanura F (2008) Self-harm in Japanese junior and senior high school students: Prevalence and association with substance use. Psychiatry and Clinical Neurosciences. 62:123-125

自殺考えたことがある



日本のゲイ・バイセクシュアル男性対象の調査 (2005年 有効回答数 5,731人)
日高 康典ほか (2007) 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業
ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2

2,095人の若者男女を対象に大阪で実施された街頭調査によれば、異性愛男性と比較してゲイ・バイセクシュアル男性の自殺未遂リスクは**5.98倍**高いことがわかっています。

Hideaki Y. et al (2008) Attempted suicide and associated risk factors among youth in urban Japan. Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology. 43(9): 753-757

LGBTsの 子どもたちの実態

「体の性」と「性自認 (心の性)」

一性をどのように認識し、どのように考えるかー

さまざまな「性のあり方」

生まれた時の性別である「体の性」と、自分が自覚している「性自認」は、必ずしも一致するものではありません。さらに、「男だから女が好き」とは限らないし、「女だから男が好き」とは限らないのです。実際、「性のあり方」は多様で、例えて言えば「グラデーション」のようなもの。しかし、現実には偏った情報もあり、子どもが正しい知識を得ることが困難な場合もあります。LGBT の 4 類型だけで表すことは難しく、このリーフレットでは、LGBT をはじめとするセクシュアルマイノリティという意味で LGBTs (エル・ジー・ビー・ティーズ) と記します。

- L (レスビアン)** 女性の同性愛者
- G (ゲイ)** 男性の同性愛者
- B (バイセクシュアル)** 両性愛者
- T (トランスジェンダー)** 生まれた時の法的・社会的性別とは違う性別で生きる人、生きたいと望む人
- Q (クエスチョニング)** 性的指向や性自認がはっきりしない、定まらない、その有り様を探している人
- X (エクスペリメンタル)** 男性・女性のどちらでもない、どちらでもある、性別が定まらないといった自認を持つ人

どう考えますか？

教員21,634人のLGBTs意識調査レポート
*Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender

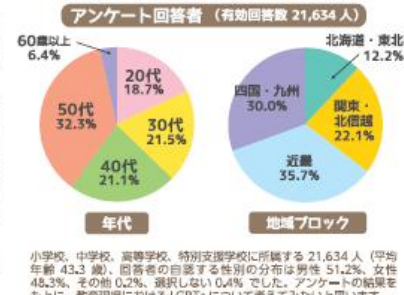
子どもが抱える性的指向や性自認の多様性

36自治体で実施した今回の調査について

(調査実施期間：2019年10月～2020年3月)

国民の5～8%程度がLGBTsであることが推定されているこの時代に、私達はどこまで正しい知識や情報を得ることができるのでしょうか。2011～13年(以下、本レポートでは2011年調査と表記)に全国6自治体5,979人の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校に所属する先生方に実施した調査の後続研究として、教育現場の先生方にご協力をいただき、LGBTsと教育について実態把握のための調査を実施しました。HIV/AIDSや性感染症、いじめや不登校の背景要因としての性的指向と性自認の関与が指摘されるようになっていきます。

集計結果の概要をご報告することを通じて、子ども達の多様性の理解の一助となることを心より願っております。



1 LGBTsについて、授業で取り扱う必要がある

教育の現場で教える必要があると思いますか？



半数以上の先生が「必要」と考えています

現在、LGBTsについて授業で取り扱うことを実践している学校は、まだまだ少数です。しかし、実際に教育の現場に立つ先生方の7割以上が「必要がある」と捉えていることが明らかになりました。最近の一部の教科書には、性的指向と性自認の記載がはじまっており、授業で取り扱うことを後押しする環境になりつつあります。

2 LGBTsの子どもと関わった経験のある先生はごく少数

SOSを出せない子どもたち

LGBTsについて子ども達と関わりをもった経験がある先生は、2011年調査と比較すると同性愛では微増、性別の違和感や性同一性障害については2倍弱に増えていました。それに対し、性暴力被害や妊娠、HIV/AIDS、性感染症について生徒と関わった経験は軒並み減少していました。男性同性間におけるHIV感染が続いている現在、HIV/AIDSや性感染症の予防教育実施の際は、性的指向や性自認といったセクシュアリティの多様性について適切に扱うことが不可欠です。また、LGBTsの子ども達の存在は可視化されづらい側面がある一方、彼らは困っている時に周囲の大人に相談することや、助けを求める援助希望行動そのものを躊躇する場合があることに留意が必要です。

実際に児童生徒と関わったことがありますか？



3 なぜ、LGBTsについて、授業で取りあげないの？

授業に取り入れた経験がありますか？



授業に取り入れられない理由



2011年調査では同性愛・性同一性障害を授業に取り入れた経験は13.7%であり、ほとんど変化がありませんでした。同性愛を授業で取り上げた先生方の62.6%が「5～10分程度の時間で話題」にしており、33.9%は「45～50分の1時間」をかけて授業をしていました。地域ブロック別の同性愛の授業の実施率では、近畿圏19.2%、四国・九州12.4%、関東・北信越11.4%、北海道・東北8.5%と西高東低でした。

LGBTsである子どもの自尊感情を育てる

授業で教える必要性があると認識している一方、実際に授業で取り扱った経験は低率でした。性的指向や性自認の多様性について先生から子ども達に投げかけてみませんか？簡単な話題でも短い時間でも大丈夫です。LGBTs当事者の子どもは、不安や戸惑いを解消するために、肯定的な情報や正しい知識を欲しています。授業で少しでもセクシュアリティの多様性について話題になることや、肯定的なメッセージが発せられることは、彼らにとって救いになるはずです。

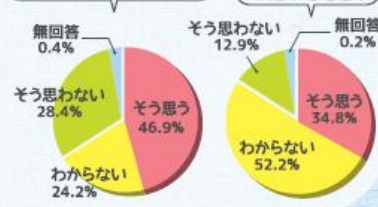
4 同性愛についての間違った理解

性的指向は選べるの？

大変興味深い結果が示されました。約7割の先生が、性的指向は本人の選択によるものであると誤解していることがわかりました。「同性愛者になることは、個人に選択権があり、拒否することも、受け入れることも自由なのだ」という理解は誤りです。性的指向は嗜好や志向とは異った「指向」であり、選択したり、あるいは修正できるものではないと理解することが適切です。また、先生方の約3人に1人は「性的マイノリティの児童生徒が、少なくともクラスに1人はいらる」と認識していました。当該児童生徒がクラスに存在することを前提にした取り組みや言葉掛けが必要です。

同性愛になるか異性愛になるか、本人の選択によるものだと思いますか？

性的マイノリティの児童生徒は、少なくともクラスに1人はいらると思う



5 クラスに1～2人はLGBTsだという現実

これまでの教員生活で、同性愛、性自認について悩んでいる児童生徒はいましたか？



LGBTsの人口規模

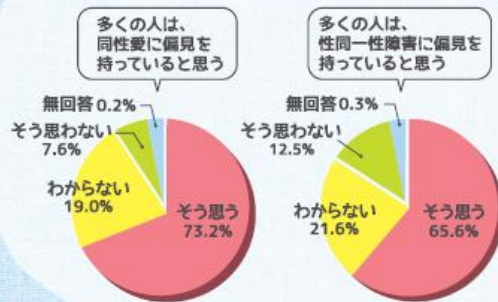
全国の20～59歳を対象にしたインターネット調査¹⁾(有効回答数 89,366人)では、レズビアン1.70%、ゲイ1.94%、バイセクシュアル1.74%、トランスジェンダー0.47%であり、LGBTs人口は5.85%と推定されています。日本労働組合総連合会が20～59歳の有職者を対象にした調査²⁾(有効回答数1,000人)では8.0%が該当すると報告され、他研究においても人口の5～8%程度存在すると見積もられています。

それでも男女の区別

世の中には「男と女」に区別されているものがたくさん存在します。もちろん、学校の中も例外ではありません。例えば、出席簿の順番や「さん、くん」などの敬称、制服、部活動、進路など、男子と女子を区別しているものが数多くあります。このように日々の生活の中で「あたりまえ」と思われている男女の区別が大変辛く、受け入れがたく感じている子どもも存在します。

¹⁾ 株式会社D.Y.ホールディングス・LGBT研究所(2016)「株式会社D.Y.グループの株式会社LGBT総合研究所」6月1日からのサービス開始にあたりLGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティの認知調査を実施
<https://www.hakuhodo.co.jp/updates/2016/05/10/01.pdf>
²⁾ 日本労働組合総連合会(2016)「LGBTに関する意識調査」
<http://www.jucrc.or.jp/info/chousa/data/20160825.pdf>

6 LGBTsについての世間の目、そして教師の目

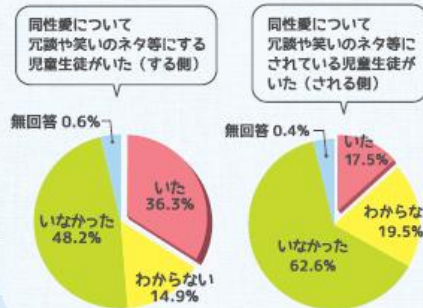


世間はLGBTsに対して否定的？

世の中がLGBTsについてどう感じているのかをお聞きすると、約7割が「LGBTsは世間から偏見を持たれている」と認識していることが分かりました。2011年調査の結果に比較してLGBTsへの差別があるという認識の割合は高まっています。LGBTs当事者からの情報発信や調査結果の報道、同性パートナーシップ制度が各地で導入されていることなどが、認識の変化に影響を与えていると考えられます。



7 子どもたちにおける同性愛についての差別的な言動



差別的な子どもたちの言動を見逃していませんか？

現在のマスメディアでは、「おネエ」「ホモ」「おかま」といった言葉で同性愛を揶揄することが多くみられ、笑いのネタとして、子ども達にもこれらの言葉が浸透しているようです。しかし、セクシュアリティに関係する言葉の暴力(からかいや差別的な言動を含む)により、自尊感情を深く傷つけられる子ども達が一定数存在していることや、それが深刻ないじめや不登校、自傷行為や自殺未遂につながる可能性も十分にあります。

差別的な言動をされている子どもからSOSを発することが困難であることを考慮すれば、先生や大人達が見過してしまうことが決してないように、場合によっては積極的な関わりや介入が必要です。



8 出身養成機関での実施状況は・・・

「学ぶ機会がない」という現実をどうする？

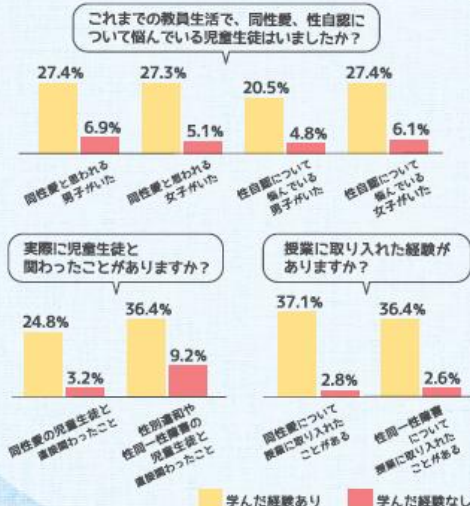
出身養成機関で「HIV/AIDS」「性感染症」については学んだ割合は3割程度であるのに対して、LGBTsや性暴力被害についてはその半分程度という結果でした。LGBTsの子ども達の多くが学齢期にいじめや不登校、自傷行為に直面しており、その背景要因として、もしかしたらセクシュアリティのことがあるのかもしれない、といった想像力を持ち、アンテナを高く立ててみてください。



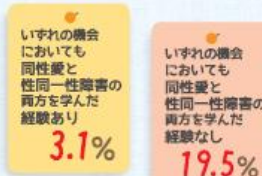
9 きちんと知ると、子どもとの関わり方が変わる

正しい知識と理解、そして実践

教員養成機関(大学の教育学部など)の必修カリキュラムに、性的指向と性自認の多様性は含まれておらず、一部の養成機関が独自に設定する科目等によって扱われているのが現状です。教員養成課程で性的指向と性自認について学ぶことを必須化することや、現職研修として全教員が学ぶ機会を確保するなど制度設計が求められます。



出身養成機関・独学・教員になってからの研修で同性愛と性同一性障害について学んだ経験



学びが多い先生ほど、LGBTsの子どもたちと関わりがある

これまでにいずれの機会においても学んだ経験がある先生ほど、LGBTsの子ども達の存在認識や実際の関わり経験が高く、LGBTsに関する授業を実践していることがわかりました。LGBTsの子ども達との関わりがあったことによって、学ぶ必要性が生じて授業の実施につながった場合もあるでしょう。これらのことから、学びの機会を確実に確保していくことが何より大切です。

10 文部科学省からの通知文書を知っていますか？

子どもの命を守るために

2015年と2016年に文部科学省から発出された性的指向・性自認に関する文書は先生方にほとんど読まれていない一方で、いじめの防止等に関する文書は多くの先生方が読んでいた。LGBTsの子ども達のいじめ被害のみならず、不登校・自傷行為経験率が極めて高率である現在、子どもの命を守るために、性的指向と性自認の多様性への取り組みもいじめ対策の一環として不可欠です。

